

現在、およそ145万人を超える人が暮らす川崎市。日々、たくさんのものが消費され、不要となったものはごみとして出されています。
それは本当にごみでしょうか？まだ、使えるものや資源として利用できるものが混ざっていませんか？
そして、このまま出し続けても大丈夫でしょうか？

地球の大切な資源をこれからも守っていくため、川崎市では、地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちを目指し、様々な取り組みを実施しています。

朝のごみ集積所です。
各家庭から出された普通ごみです。
果たしてこの普通ごみはどこへ運ばれるのでしょうか？
普通ごみを積んだ収集車は、川崎市内にある処理センターなどへ向かいます。
それぞれの処理センターへ運ばれた普通ごみは焼却処理されます。

それでは処理センターに運ばれてからの普通ごみの流れを見ていきましょう。
まず、集められたごみの量を計量所で計ります。
計量した後、プラットホームからたくさんのごみをためておくごみピットへとあけます。
ピットの中のごみを大きなクレーンで焼却炉へ投入します。

コントロール室では機械の運転や焼却炉を監視しています。
普通ごみを燃やした余熱は、電気を作ったり、温水プールなどに有効利用しています。
ごみを燃やした後の焼却灰は、一旦、灰ピットにためられた後、埋立処分場へ運ばれていきます。

また、川崎市では北部地域から発生する普通ごみや資源物の一部及び焼却灰を、鉄道の貨物を利用して南部地域の浮島処理センターや埋立処分場などに運んでいます。
廃棄物の鉄道輸送は、縦に長い川崎市において効率的で環境にもやさしい輸送手段として全国で初めて導入したものです。

次に、資源物の処理の流れを説明します。
空きびんはトラックからパレットのまま降ろされ、コンテナへ移されます。
空き缶・ペットボトル、プラスチック製容器包装、ミックスペーパーはプラットホームから直接コンテナへと投下されます。
一杯になったコンテナは、貨車へ積み込んでいきます。

積み込まれた普通ごみや資源物、焼却灰は浮島などにある、それぞれの処理施設へ運ばれていきます。

普通ごみは浮島処理センターへ、プラスチック製容器包装とミックスペーパーは浮島処理センター資源化処理施設へ、空き缶・ペットボトル、空きびんは南部リサイクルセンターへ、焼却灰は浮島埋立処分場へと運ばれます。

それでは次に焼却灰の処理について説明します。

川崎市の浮島埋立処分場は、川崎市浮島町にあります。昭和53年に作られた浮島一期処分場はすでに埋め尽くされ、平成12年には新たに海を区切って、浮島二期埋立処分場が作られました。

しかし、この処分場が埋め尽くされてしまうと、もう新たに作ることはできません。そのためには普通ごみを減らす努力が必要となってきます。

ごみの減量には3つのR、3Rの実践が欠かせません。

リデュース…ごみを出さない努力です。

食品であれば、食べられる分だけ買う。

割り箸は使わない。

レジ袋をもらわないなどがあげられます。

リユース…使えるものは再使用します。

詰替え製品を選びます。

家具や家電製品などは、修理して使用します。

着られなくなった洋服は、フリーマーケットを利用します。

リサイクル…資源として再生利用します。

ミックスペーパー、プラスチック製容器包装、空き缶・ペットボトル、空きびんが川崎市の資源物収集品目です。

それでは、どのようにリサイクルされていくのでしょうか。

空き缶・ペットボトルは同じ収集車で集められ、南部リサイクルセンターなどに運ばれます。袋などの異物を取り除いた後、機械でアルミ缶、スチール缶、ペットボトルに分けられ、再生処理業者へ渡されます。

そして、空き缶は建築用鉄製品やアルミ缶に、ペットボトルは包装材や事務用品、繊維製品に生まれ変わります。

集められた空きびんは、南部リサイクルセンターなどに運ばれます。リターナルビンなどを取り除いた後、白、緑色、茶色の色別に分けられ、再生処理業者へ渡されます。そして空きびんは新たなびん容器になる他、道路舗装の材料などに生まれ変わります。

収集した資源物はこうして、再加工され、また社会へと還元されていきます。

リデュース、リユース、リサイクル

皆さんも3Rを心がけて、地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちを作っていきましょう。